



大蛇退治之舞の序盤の櫛名田姫の舞。いけにえとして大蛇に飲まれる櫛名田姫が、恐怖におびえながら神に助けを求めるさまを表現する



46歳頃の松本耕三郎
(提供:金井庫治氏)。
明治末期、大類村柴崎
(現・高崎市柴崎町)出身で、薄根村恩田で
巡査をしていた。退職後、
硯田天満宮の宮守になり、
地域の青年たちに
神楽を教えていた。

11
猿田彦之舞



天孫降臨の道案内神、猿田彦の舞。猿田彦神社は伊勢神宮の前に鎮座している。

コロナ禍においても、時間を短縮し3演目程度を奉納しています。神様の喜びは、笑顔で幸せな人々を見ること。太々神楽は神様の望みにかなつたもてなしを、地域に広げています。

コロナ禍においても、時間を短縮し3演目程度を奉納しています。神様の喜びは、笑顔で幸せな人々を見ること。太々神楽は神様の望みにかなつたもてなしを、地域に広げています。

神楽奉納は、薄根太々神楽保存会は4月29日に三峰山河内神社で、薄根太々神楽硯田保存会は3月最終日曜日に菅原神社(硯田町)で行っています。天照大神の厳かな雰囲気な舞、大蛇に飲み込まれる悲壮感や恐怖を演じる姫、タコ入道とひよつことこの滑稽な掛け合いなど、全演目を約3時間かけて公演します。舞の途中には福餅を投げ、観客は手を伸ばして取ろうと競い合って盛り上がります。境内にはフリーマーケットも出店してにぎわいます。

8
大蛇退治之舞



須佐之男命が恐ろしい大蛇を退治し、櫛名田姫を助ける。乱世を治めることも意味する。

9
両剣之舞



須佐之男命が退治した大蛇の体から出てきた剣と自分の剣の2本で舞う。邪気を払い安穩を祈る。

10
恵比寿之舞



国譲りの交渉に来た神をもてなそうと、恵比寿の神が海の幸を取る釣りの舞。ひょつことタコを配し、ユニークに表現。

薄根太々神楽は、笛や太鼓に合わせて五穀豊穡を祈り、感謝する舞です。天地創造から天孫降臨まで11座で構成され、「国固め之舞」といった格調ある式舞と、「恵比寿之舞」などの興舞を持つのが特徴です。笛と太鼓は場面に応じて13曲を使い分けて演奏。全部で26神が登場し、制作したお面の数は約15面です。